

# 五三會

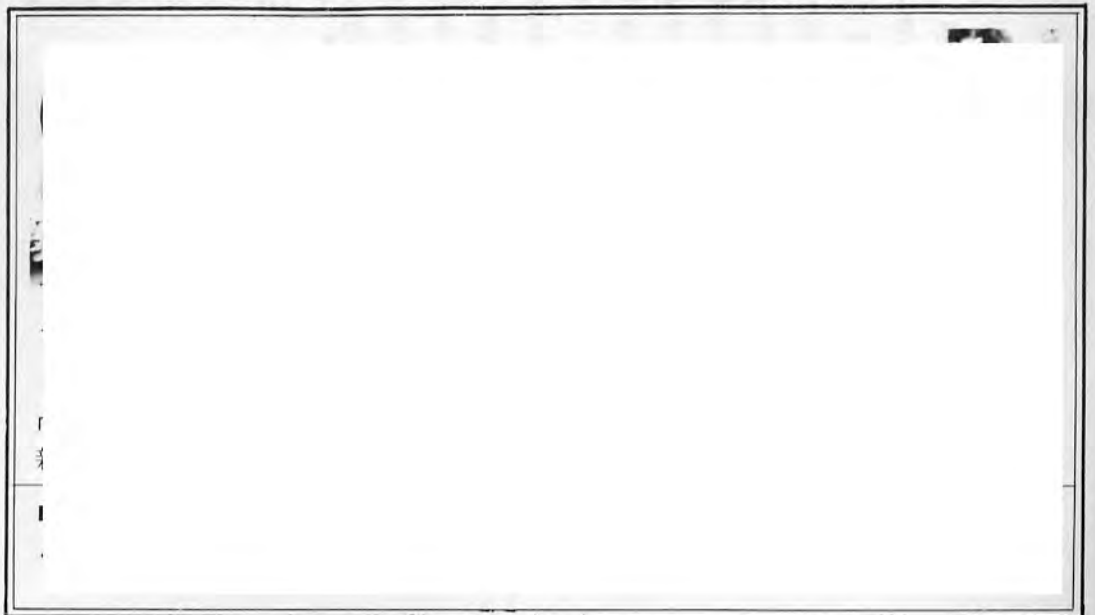
広島工業大学 建築学科 同窓会  
第7号 昭和55年版

曾根田彰教授退職記念号



## も く じ

曾根田先生へのメッセージ .....	鶴 斐 .....	2
曾根田彰教授プロフィール .....		3
建築学科の草創時代 .....	曾根田 彰 .....	4
曾根田教授へ一言インタビュー .....		6
曾根田先生を送る詞 .....	牛島 賢象 .....	10
曾根田彰教授の退任にあたり .....	菅原 辰幸 .....	11
拝啓 曾根田彰教授殿 .....	金堀 一郎 .....	11
曾根田先生の思い出 .....		12
曾根田彰教授退職記念講演及び同パーティの御案内 .....		13
“いつみかい”ってなあに? .....	中島 伸夫 .....	14
雪国の街より .....	松波 堅市 .....	15
建設業界を離れて .....	松村 政高 .....	16
結婚のすすめ .....	山本 富雄 .....	18
第5回五三会コンペ入選発表 .....		19
第6回五三会コンペ作品募集 .....		21
広島市の都市美に関する論文 .....	上之 博文 .....	22
ゼミナール紹介 .....		24
退職に当って、五三会の皆様へ .....	橘 節司 .....	27
設計と絵画 .....	加藤 早苗 .....	28
全米住宅ショー見聞記 .....	金堀 一郎 .....	29
五三会活動報告 .....		31
昭和54年度卒業予定者就職内定者一覧表 .....		32
広島工業大学建築科同窓会「五三会」会則改正 .....		36
広島工業大学建築学科教員及び非常勤講師名簿 .....		38
昭和53年度決算報告・昭和54年度予算報告 .....		39
役員の変遷 .....		40
昭和54年度分科会役員紹介 .....		41
編集後記 .....		42
表紙(絵) .....	曾根田 彰	





# 教 授 退 職

曾根田先生へのメッセージ

鶴学園理事長・総長 鶴 襄

先生には、長い間本当にご苦労さまでした。

本大学創立時より、建築学科主任教授をお願いしてご苦労をおかけしました。

今日広島工業大学建築学科の卒業生は設計に非常に優れていると企業及び社会一般から評価をうけるようになりました。これも、ひとえに先生の意欲的な学究心と沈着・緻密な計画性によるものと感謝しております。

このたび、定年退職をされることになりましたが、元来お体があまり丈夫でない先生には、くれぐれもご健康に留意されて、こんご、いっそう在学生及び卒業生等のご指導をお願いするしだいです。

どうぞ、今後ともよろしく申し上げます。

# 曾 根 田 彰



広島工業大学教授

そねだ ちか  
曾根田 彰

## 略 歴

明治四十四年十二月二十日、広島県佐伯郡能美町に生まれる。旧制広島一中を経て東京帝国大学工学部建築学科を昭和十一年三月卒業、大阪市（当時）に入庁、その頃、日本住宅営団が設立され、準備段階から同営団（東京支所）へ移籍、間もなく終戦。戦後は同営団

広島支所へ希望転勤。営団閉鎖後原爆被爆直後の混乱期に総理府技官として建設、資材の配給等の事務に尽力した。

昭和二十三年に住宅課長として広島県に奉職。建築課長宮繕課長、県

庁舎建築工事監督事ム所等を歴任して昭和四十二年三月、土木建築部次長を

最後に停年退職。同四十二年四月一日

より広島工業大学建築学科教授に就任その後建築学科主任教授として、今日の建築学科を築き現在に至る。

・ 日本建築学会中国支部・支部長

・ 広島県建築士会・会長

・ 広島県建築士審査会会長

・ 木造住宅等供給対策委員会委員長

・ 広島県固定資産評価委員会会長

等を歴任されました。

## 建築学科の草創時代

曾根田 彰

私が本学に赴任したのは昭和四十二年四月であって、第一回生が漸く三年次の新学期を迎えた時であった。学科主任の飯田須賀斯先生は東洋建築史の碩学老教授であられて私より一年前に遠く東北大学からお招きした方であり、その後教え子の丹羽先生を呼び寄せられて、お二人で一語の下宿生活をして居られた様に思う。

建築学科の開設はもう一年遡って昭和四十年であり、当初の功労者としては山本堯先生と上野先生（設計製図）のお二方がおられた訳であって、この春に私と同時に吉田先生（力学）と牛島先生が就任されて教員陣営は教授二・助教授三・講師二となって何とか形は出来た訳である。しかしこの時の学生数は、三年次は百四十名のクラスであったが一・二年次は早くも二クラス編成で入学しているので合計六〇〇名を越える大編隊であった。これまではまだ専門の学科目も少ないので何とか浚いで来たのであるが、三年次を迎えると専門科目は殖えるし、その中でも「設計製図」が前後期共に九時間であり、二年次も六十九時間となってこの設計の分だけでも大変な「ノルマ」になって来たので

ある。この時の私達の心情は、まるで上流から大洪水が押し寄せると云うのに、下流には未だ提防も完成していない場に派遣された救援隊の様なものだと山本先生達と話し合った事を覚えている。教員数の未整備の間は、せめて単級編成で進んでくれ、ば何とか努力の目途も立ったのに、そんな事にお構いなしに定員倍増で流し込み、さあ何とかしろと押しつけられるやり方に、私もつくづく私学経営の非情さを早くも味わう思いであった。

所で早速私を待ち受けていた担当講義は「建築行政」と「都市計画」であった。行政の方はこれまで広大の非常勤講師を十年間続けて来たので全く心配なく開講出来たが、後期に始まる「都市計画」についてはこれまでの講義の腹案は丸っきり無かったので聊かあわて気味であった。先づ教科書から探し始めたが皆土木学科用のものばかりで、当時としては建築学者の書いた教科書は殆ど見当らなかったが、土木ライブラリーの一分冊で鈴木信太郎氏の「新しい都市計画の方向」という小冊子が見付かり、私の望んでいた方向に紋れた稀有の著書であった。これを講義の背骨にしてこれに肉付けするのがこれから九月までの勉強であった。とは言っても、学校に居る時間は毎日、目の前を流れる濁流と

の斗争であり、研究室の名札は掲げられては居ても研究等という事に頭を向ける時間は殆どない事は今日迄の十三年間全く変りはなかった。随つて主力は夏休みの一ヶ月余りであった。言うまでもなく昭和四十年代は既にわが国も大都市問題に悩まされ、多くの建築学の間にもこの方面への専門的研究者が殖え続けており、各種の著者も多くまた翻約書も次々と刊行されている状態で資料には事欠かなかった。夏休み中は殆ど連日家に籠り朝から日暮れまで一步も外に出ない状態が続いたことは今から思い出ししても不思議な位で、疲れを感じるよりも日暮れの早い事を嘆くばかりであった気持を思い出して、あの頃は末だ若かったのだなとつくづく憶うのである。

この年の半ば頃、開設当初から山本先生とお二人で大変苦勞された上野勇先生が身を引かれ、その後、西川先生が学内唯一人の女先生として大阪から、橘先生が県住宅公社から駆け参じて下さり、次の四十三年度には新進気鋭の天満先生と佐藤先生が参加されて漸く心強い陣容となつたのであるが、この時の学生数は既に九〇〇名を越えていた様に思う。

所がこの年度の終りに突然、主任教授の飯田先生が東京へ帰りたいたいと言ひ出されて一同

が愕かされたのである。先生は最初からの約束で、毎月半分は東京に帰つて図書館に通いたいからという条件で赴任されていて、こちらの半月は下宿や旅館暮らしと言う窮屈な御生活であつたのである。それは高血圧の持病があり、日々の無理な学科経営に伴う心勞で時々氣遣わしい御容態も見えた事もあつて、我々もこの上御無理を強いる訳には行かなかつた次第である。先生の參勤交替の留守中は私が城代家老の様な立場にあり、教室主任見習いもどうやら後継ぎが出来そうだからと思われたぎりぎりの時期まで待たれたのかも知れない。仙台にお帰りになつて二年半後にはお亡くなりになつたのである。その後四十四年度からは完全な複学級として学生数も一、〇〇〇名を越える大世帯になり、そして本学卒業第一号の菅原辰幸君が始めて助手として教員陣営に加わることになる。なおこの年から地井先生が、翌年度から佐藤立美先生が赴任されて、おゝむね現在の陣容が固つた次第である。

# 一言インタビュー

坊 敏之 (広島県住宅供給公社 理事・事務局長)  
丹野 昌明 (広島県都市部 営繕課長)  
高尾 松四郎 (広島県建築士会専務理事・事務局長) に同じ問を試みました。

## 広島県住宅供給公社

理 事 坊 敏之  
事務局長

Q-1 先生との出会いは?

水主町(現在の加古町)にあった県庁舎が、戦災後、その仮庁舎を、東洋工業から旧兵器支廠(現在の広島大学医学部)に移していた頃、曾根田さんは住宅課長をしておられました。私は営繕課の技師でしたが、建築行政協会の機関誌『かすがい』の編集委員を勤めることになり、編集方針の打合せ等で、初めて先生の警咳に接する機会を得たように記憶しております。

Q-2 先生と仕事の御関係は?

長い間仮住居してきた県庁舎が、基町の現在地に庁舎を新築して移転することになり、昭和二十八年に、営繕課の中に県庁舎建築係が設けられ、私はその係員になりました。また、営繕課長は古林さんから曾根田さんにかわられました。これが上司部下の関係の始まりです。

その後、県庁舎建築工事監督事務所(昭和二十九年から三十一年まで)、

建築課・住宅課を通じ、課長→係長の関係が続き、私が昭和四十二年一月に営繕課長を命ぜられてから、先生が県をお辞めになった三月末までは、僅かの期間でしたが、土木建築部次長→営繕課長の関係でした。

昭和二十八年以来十四年間の長きに亘り、先生の御指導御鞭撻をいただきましたことになりました。

Q-3 先生はどんな人でしょう?

誠実真摯な Gentleman。 Gentleman の意味は、気品・学徳をそなえた礼儀正しいと云うことです。それから、絶えず教養を磨く努力が続けられている点には敬服します。ただ、議論の際に早口になって説得力を欠く結果となることが、時々ありました。

Q-4 先生の思い出は?

県立広島病院の職員住宅(中層R・C造)を、都市計画道路の道路予定地に跨って建築する事件が起ったことがあります。職員住宅建設用地の一部が計画道路の拡幅予定地であったと云うわけです。この建物は住宅公団の特定分譲住宅であったから、工事の発注

者は公団であり、設計及び工事監督の受託者は県（営繕課）、竣工後の建物の譲受人は県（県病院）となっていたと記憶しております。

コンクリートを打ち上った時点で誤に気付いたのです。一部を解毀撤去しなくてはならないので、損失が生じることとなります。そこには当然のことながら責任問題が生まれます。

責任に対する懲戒処分は、現地を確認した公団及び建築確認をした市では行われなかったが、県では関係者全員の処分がなされました。予算計上した医務課、公団に意見書を出した住宅課、設計した営繕課の関係者に対してです。この時、曾根田さんは次長兼住宅課長をしてもらったが、敢然として最高責任者としての処分を受けられました。

何段階もあったチェックポイントが、揃いも揃って見逃がしたと云うことであり、そのことは現地の状況がそれ程道路拡幅の必然性を感じさせない状態であったと云うことでもあったのです。

問題発生が一月、三月末には退職されるのがきまっていたのですが、兎角、問題解決の遷延を図り、責任を逃れようとする風潮の中で、残り僅かな

在職期間中に、自己の全責任として処理された天晴れな姿であったと今でも敬服しております。

Q15 先生にお世話になった事は？  
先生にお世話になったことは沢山あります。沢山あり過ぎて総べてを申し上げるわけには参りませんが、そのうちの二をお話いたします。

その一つは、県庁舎新築工事が竣工した際、設計者であった日建設計から、入社の勧誘を受けたことがあります。上司であった曾根田さんの御了承がいただければと思い御相談に参上いたしましたところ、『辞めるな』と慰留されました。お蔭で今日の私があると思うと、設計業界の現状をも併わせ考え、誠に有難い御判断をいただいたものと感謝しております。二つ目は、謡曲の手ほどきを受けたことです。『うたい』も仲々上達いたしました。下手は下手なりに同好会を開いて楽しんでおります。我々戦中派には無趣味の人が多くて、それが、そろそろ停年を迎える今日此頃となって、頭をかかえ込んでおられる方が多いのです。『私には、うたいの趣味がある』と云えることは

幸福なことで、それもこれも、先生の理論的御指導によるものと思っております。何しろ口伝の世界ですから。

Q16 先生へのメッセージ  
県・大学を通じ長い間御苦労さまでした。これからの余生は、どうぞ悠悠自適、一日も長生きしていただきたいと思えます。また、何彼と公的な委員等の委嘱もあろうかと思いますが、気分転換、老化防止のためにも、引続きお引受下さいますようお願いいたします。





広島県都市部

営繕課長 丹野 昌明

Q一 先生との出会いは？

昭和二十二年十月、戦災復興院広島建築出張所に着任し、当時同所の企画課長であった先生と始めてお会いしました。当時の戦災復興院広島建築出張所は約百人に近い大世帯で、その半数以上が住宅営団広島支所の解散移籍組でしたが、先生は営団時代は建設部第二課長とかで、技術陣のホープとしての若手課長で衆望を集めておられた。

Q二 先生と仕事の御関係は？

同じ職場での上司部下であり、先生の後塵を拝して、家(課)督を相続させていただきましたが、私にとって先生は、縮める事のできない年令の差のように、いつまでたっても追い越せない偉大な目標です。

Q三 先生はどんな人でしょう？

一口に云うなれば、「篤実円満な紳士」

しかも、堅苦しさのない、軟かい話や馬鹿話にも仲間入りのできる人です。又長いつきあいの間、一度も大声で叱られた事もなく、他人の悪口を云っておられるのを聞いた事ありません。仲々凡人にはできない事です。

Q四 先生の思い出は？

若いグループで謡の手ほどきを受けたとき、日頃の躰つきや声からは想像もできない美声に魅せられて、皆身の程も知らず狂った一時期がありますが、何か理由をつけては当時お住いの比治山のお宅に押しかけたものです。本音の半分は、奥さんとお二人の落着いたお暮らしぶりにあこがれ、又半分は稽古のあとで奥さんの手料理で一杯飲むのを期待したさもありものです。

Q五 先生にお世話になった事は？

当然ですが仕事の面では、御迷惑のかけっぱなし、お世話になりっぱなし

です。プライベートの面では、色々気をつかっていただいた事は多々ありますが、御迷惑をかけたと云う罪の意識はありません。

Q六 先生へのメッセージ

ただひたすらに、いつまでも御健康に爽やかに、吾々の、皆んなの希望の星であってほしい。



広島県建築士会

専務理事  
事務局長 高尾松四郎

Q-1 先生との出会いは？

昭和二十二年五月頃、私が戦災復興院に勤務している当時は、終戦後の物資の不足はもちろん経済情勢がいまだに混乱しているときで、臨時物資需給調整法が制定された。建築に関してもその用途・規模に厳しい制限を加える建築物統政令が公布され、これが施行のため広島県に戦災復興院広島出張所が設置された。その際先生は住宅営団の閉鎖により、この出張所に勤務され、私も本省から広島に転勤を命ぜられた。今の霞町広大病院、当時陸軍兵器廠の赤レンガ倉庫の建物の二号館だと思いが、その中に設置されていた出張所に、私が赴任してきて先生にお目にかかったことが、初めての出会いと思われる。

なんと役人はなれのした人ざわりのよいお人と感じを受けたことを覚えて

Q-2 先生と仕事の御関係は？

先生は、出会い後私が県庁に去るまでの二十七年間において、上司としてよく指導して下さい、私も永きにいたって、よき上司の下に大禍なく仕事が出来たことを感謝している。

Q-3 先生はどんな人でしょう？

先生は資性温厚な方であるが、一面には、仕事なり物の考え方について常に筋を通す信念の強い方である。

Q-4 先生の思い出は？

先生は貴公子でいらっしゃるが、お酒の席にも気兼ねなく出席して下さい。先生の十八番と云える「いやさお富さん……」のセリフを、手拭いを肩にかけ、あぐらをかいて披露する歌舞技調は大きな思い出ではないかと思う。

Q-5 先生にお世話になった事は？

先生には日常勤務についていろいろお世話になっていたが、特に先生の建築

課長時代、趣味として、謡曲の良き指導者であった。

おそらく、県庁建築関係の謡曲グループで先生に御指導を受けていない人は無いと云えるだろう。現在でもそのグループの一部の人がOB関係を含めて謡曲会を催しているが、こうした機会が出来るのも先生のおかげではないかと思われる。

Q-6 先生へのメッセージ

先生にはいつまでも健康を留意され、建築界を御指導することを望みます。



## 曾根田先生を送る詞

牛島 賢象

暦の上では立春を過ぎながら寒さが続いている時に、曾根田先生を送る詞の原稿依頼を受け、先生のご退任が実感として迫り、今更ながら淋しさと心細さが、折からの寒風とともに胸中をよこぎる思いがいたします。

つい昨日のように思われますが、十三年前の昭和十二年四月曾根田先生・吉田敏夫先生それに私とが広島工大に勤めることになりましたが、その時が先生とはじめての出会いでした。広島建築関係者で先生を知らない者はおぐりだ、との謗りを受けるかも知れませんが、広島に来て日も浅かった私でしたのでその時が全くの初対面でした。お会いして最初の印象は、永いお役人生活をされた方にしては役人臭のない方だということでした。

当時の建築学科は先任の飲田・上野・山本・丹羽の諸先生方のご努力により、遂次学科としての体裁を整えつつあったもののまだまだ大変な時代で、特に

飲田先生が退任された昭和四十三年四月からは教授は先生お一人となられ、その後林先生が着任されるまでの数年間連続して主任教授の激務に就かれ学科の充実に奔走され、また学会・士会等でも多くのお役目を持たれ地域社会に奉仕されるなど、長身瘦躯の先生はどこにそんなエネルギーが秘められているのかと驚嘆したものです。しかしあまりの激務に持病の再発をなされ、ご入院や自宅での療養も何回かなされましたが、その間もある時など、山本先生と私とで当時先生のお宅のあった比治山まで押しかけ、ご指導を受けたこともあったぐらいですから、充分なご療養などできなかつたのではないかと思います。

先生は主任教授としての立場上、建築学科や教員と大学の間にあつてご心労が絶えなかつたことと思えますが、先生のお口から愚痴や不満や中傷等はついぞ一度も聞いたことはありませんでした。そんな先生に接しているとかえって先生のご心中が察せられ、お気の毒でたまらぬ時もありました。しか

し奥様の運転されるかぶと虫のようなスバルの軽四輪に乗られて三宅の坂を登られるお姿をお見かけした時は何となく心なほみ、ほっとしたものです。また先生はお忙しい時でも細いお心使いをなされる方で、工大に來られて間もなく冬休の初日、先生の発案で建築学科教員一同十日市でボーリングを楽しみ、土橋の焼肉屋で一杯やったり、また私事で恐縮ですが、私が腰痛で休んだ時わざわざ温灸器持参で見舞に來られ、以来私は腰痛の兆しがあると温灸器を用いて快調です。

先生を送るに當って惜別の情はつきませんが、幸い先生はご退任後も非常勤としてご指導いただけることでした。また今後は学務に追われご苦勞なされることもなく、ご自分のペースで、より充実された日々をお送りいただけるわけですから、五三会会員諸君とともに、先生のご健康をお祈りし、およろこびとお礼を申しあげましょう。

曾根田先生ありがとうございました。

昭和五十五年二月七日日記

広島工業大学建築学科助教

曾根田彰教授の退任に  
あたり

五三会会長 菅原 辰幸

本年三月をもちまして、曾根田先生が退任されることになりましたことは、我々卒業生にとって非常に淋しいことであります。

振り返ってみますと、建築学科の一期生が三年生に進級した春に工業大学へおいでになられ、建築行政を講義していただいたのが、先生との最初の出会いであったと記憶いたしております。あれからもう十三年の年月がたちました。

先生には学生の教育はもちろんであります。卒業生のためにも色々と御心労をおかけしたしいです。建築学科同窓会「五三会」の発展のため、結成時よりの御指導に感謝いたし、お礼を申し上げます。

先生の御健勝をお祈りしますとともに先生が退職されました後も在学および卒業生の御指導をよろしくお願いいたします。

拝啓 曾根田教授殿

(四十五年卒)  
金堀 一郎

私は今、広島工大OBであることに自信と誇りをいいております。

工大を卒業と同時に何の迷も覚えず住宅産業界に自が望み進みまして十年が過ぎ去ろうとしています。地場の中堅ホームビルダーにて企画開発の仕事に若き情熱を燃やし、意欲的な日々を送っていつ、生涯を貫く仕事をもつ幸福感に満ちております。これもすべて先生のおかげで感謝の日々です。何の躊躇もなく生涯の仕事として「住宅」を選んだのも先生の影響です。

学生時代の先生の講義の中で先生との対話の中で住宅問題の深刻さ、住宅と人のかゝわり、奥の深さ、ヒューマニズム、技術と技能の交錯、そして産業としての経済効果の大きさ等々。一つ一つに深い興味を覚え住宅産業界に憧れたものです。あれから十年、仕事も私生活も趣味もすべて「住宅」でした。そしてやっと今、住宅問題とは何か、どうすべきなどの糸口が判りかけてきています。これからも、たゆまぬ研鑽を重ね住宅を通じ社会に役立つ仕事をやる夢を抱いております。

顧みず卒業後も先生のお世話になり続けているようです。第二の人生のスタート、結婚の折には仲人を引受

けて頂きありがとうございます。九年前です、社会人として間もない若い我々でしたが先生に仲人をして頂くことで相手の両親も安心したものです。

三年前です、憧れの東京生活に終止符を打ち、帰郷し地場の会社に再就職し、まして初仕事で「住宅設計コンペ」を企画しました折には審査員を務めて頂き、ありがたく感謝しております。それから、昨年末には建材メーカー五社共催による「家づくり資料館」オープンの際には推薦のメッセージを頂き成功裏にオープンさせることができました。今後の「家づくり資料館」運営についてもよろしく御指導下さいますようお願いいたします。そして今、住宅産業界で十年間学んだものをまとめ何かの役に立てばと思いつく「失敗しない家づくりの法」という小著を書いております。この本の監修のことは先生に頂きたく思っております。先生の大学での最後の面倒として是非とも宜しく願います。

工大建築学科を創られた先生、人間性豊かな先生、正しいことは正しく押し通される先生、明治・大正・昭和に通じるモダンな先生、万人に愛される先生、私の最も尊敬する恩師です。いつまでも御健康で御活躍、御多幸を心よりお祈り致しております。

昭和五十五年一月三十一日

榊共立ハウジング企画部勤務



## 曾根田先生の想い出

(四十六年卒)

加川 幸則

曾根田先生が広島工業大学を退任されるという話を聞きまして、ほんとうにおいしい先生が工大から居なくなるのだなあとさびしい気持で一杯です。

在学中、私はあまり勉強する学生ではなかったのですが先生の講義はあまり頭に残っておらず今考えてみると学生時代の

四年間ももったいないような気がしています。今だったら先生にわからないことや色々なディスカッションなど思う存分できたにと残念でしかたがありません。

学生時代先生のことばで印象に残っていることがあります。それは私の就職が決って先生のところへ挨拶に行った時でした。先生が「仕事場で先輩にへんなことを(常識的なこと)聞くなよ馬鹿にされるから、わからないことがあったら聞きに来い」と云われたことです。その時はピンと来なかったのですが実際就職して職場についてみる

とわからないことだらけで一から十まで先輩に聞きたいことだらけでした。

その時先生のことばを想い出し変なことを聞くと馬鹿にされると思い先生に聞きに行こうにも大学は遠すぎまたわからないことも多すぎ結局自分で調べよりほかありませんでした。今考えると先生は「大学を出ても一生勉強の必要がある自分の道は自分で開け」と云われたのだと思います。

先生ほんとうに長い間御苦勞様でした。

最後に先生の御健康と御多幸をお祈り致します。

広島市役所勤務



## 曾根田彰教授退職記念講演及び同パーティの御案内

### 五三会会員各位殿

皆様方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

本会では昭和55年3月を持って退職されます曾根田彰教授の退宮記念講演及び同パーティを下記のとおり開催いたします。

曾根田先生は昭和40年建築学科創立以来今日に至るまで建築学科のために尽力され、また、五三会の顧問として発足以来ご指導いただいていたものであります。

この度先生のお話を拝聴する機会を得ましたことは各位にとって大変意義あるものとする次第であります。

万障繰り合せの上多数御参加下さいますようお願い申し上げます。

尚、当日、記念講演前に五三会総会を開催いたしますので合わせて御出席下さいますようお願い申し上げます。

### 記

日 時 昭和55年3月29日  
3時より 五三会総会  
4時30分より 記念講演(引き続きパーティ)  
場 所 広島市中島町4 鶴学園広島校舎(仮称)  
講演題目 「住宅問題と私とのかゝり合い」  
パーティー参加料 5,000円(五三会会費も含む)  
後 援 広島県建築士会・広島県設計事務所協会

### 案 内 図



”いつみかい”ってなあに？

みなさんノちょっと耳をすませて下さい。五三会の鼓動の中に、次第に力強い響が聞こえてきませんか？

新建築二月号、村上徹さんの作品が掲載されているではありませんか。昨年十二月の中国新聞を見ましたか？。

広島市が公募した都市美に関する提案で、デザインの部第一位に上之博文君が、そして論文の第一位に五十四年度卒業生の伏谷かなさんが、その名を響かせているではありませんか。

”五三会”、この会を構成する我々同窓生の行動の中から、次第に社会に対する評価が認められ、そしてそれに高い評価が与えられるという現実が生まれ始めたのです。これは五三会としての大きな喜びであると共に、五三会自体の存在が社会に対してある位置を確立しはじめたことを意味すると理解できます。

しかし皆さん、五三会とは一体何な

のでしょうか。単に広島工業大学の卒業生が、入会金を支払うことによって自動的に会員になって存在している、どこにでもある同窓会なのでしょうか。

その程度の意味しか持っていない五三会であれば、すでに五三会は解散してしまっているでしょう。ここでもう一つ皆さんに知っておいて頂きたいことは、先程紹介した村上さんも上之君も、共々五三会の実際の運営にたずさわっている大きな力だということです。このことに一つの意味を見出すことができると思います。

時代は今、広範な見識を持ちつつ、一つのことに関してスペシャリストでありうる人間を求めています。広範な見識、それは単に書物を読むだけでも、テレビの教養番組を見るだけでも、またしてや日々の激務に追いまくられた中から生まれるものではありません。いろんな社会の機構のもとに所属した人間が、いろんな知識を持って集り、話し合い、そして新しい人間関係の中か

ら次の新しい社会を知る、こうした中で広範な知識や社会のニーズを導き出してゆけるものなのです。

五三会、この会はお互いがお互いを利用し合う会だと思えます。お互いがお互いを啓発し合う会だと思えます。こうした行動の中から、次の時代をリードしてゆく人間が生まれてゆくものと確信しています。

在学生諸君ノ 君達はなぜ君達の方からもこの会へぶつかってこないのか。自分達の知らない社会を知ろうとして、こうして欲しいという同窓生に対する要求を持って。

同窓生諸君ノ なぜもっと大きな世界を広げようとして五三会を利用しないのか。

今社会が求めているものは、難解な論理性より、より具体的な提案であり行動であると思えます。今後の五三会が向かおうとしている方向は、大学という一つの文化形成を担い得る核を中心として、地方の時代に対応した各種

提言のできる、力を持った会にするこ  
とだと理解したいのです。

在学生諸君ノ 同窓生諸君ノ 行動  
を開始しようではありませんか。五三  
会を力のある広島に於ける提言団体の  
母体とするためにノ

(LAT環境設計事務所勤務)

中島 伸夫

## 雪国の街より

富山県高岡市役所建築課

(四十四年卒)

松波 堅市

私の住みついている街は、北陸路越  
中高山の高岡という所である。冬でも  
小春日和が多い、瀬戸内に面する広島  
と違い、大々しい日本海に面するこの

地方は、十二月中旬を過ぎると、湿気  
をたっぷり含んだ淡黒の雲に、空一面  
覆われ、やがて真綿のような雪がちら  
つき始める。屋根や道路の除雪を行な  
う後から、すぐに速慮もなく、ばたば  
たと雪が舞い、一夜降り続いて朝、窓  
越しに見る雪は、ドォンという音を

たてて、一瞬に落ちてきた感がするほ  
ど、強烈に積る。私の街の環境はと言  
えば戦災に会っていないので古い町家  
の建物、土蔵造りが大分残っているの  
を始めとし、街の全体の誇りである古  
城公園は、城郭こそないが、大きさは  
広島平和公園より大きく、起伏に豊み、  
堀の水は深緑色に染まり、樹木は多く  
四月は桜、秋は紅葉と市民の目をなご  
ませ、街の中心にあるのがとてもよい。  
十五分ほど走らせると、日本海を見る  
ことができるし、市内を一眺出来る山  
(広島ならば比治山といった所)もあ  
るし、国宝級の寺社もあり、電車は広  
島と同じようにまだ健全に生き残って  
いる。

だが今、この街は富山と金沢に狭ま  
れて、経済的に沈没現象を顕わしてい  
る。そこで、商工会議所・役所を中心  
に経済的發展(再發展)に、非常な力  
を入れて、街づくりに取組んでいる。  
例えば現在、問題の中心になっている  
のは、富山大学工学部が、この街から、

富山の本校の方へ統合されることにな  
り、それでは私の街に新たに大学を設  
置してほしいと国に強く要望している。  
たしかに学生のいる街といない街では、  
商店街等の若さが違うし、工科系の大  
学が設立されれば美術工芸(鋳物)、  
アルミ産業で生きているこの町に役立  
つという算段である。だがこれが本当  
の街づくりではないと思う。外部から  
の誘引力をもって、街を發展させても  
よい街づくりに還元できるとは思わな  
い。工場誘地を一早くやり、公害県に  
一番乗りした実績が示している。雪が  
たくさん降ると車道はブルドーザー等  
で除雪が行なわれ、歩道の方に雪を積  
むのである。又道ぎりぎりに建てられ  
た家の屋根の雪は歩道に落ちてきて、  
人々は、雪がつもると車道を歩くので  
ある。こういう所を解決する所から、  
街づくりを始めたいと思うのである。  
市民一人一人の気持をどこかで切り  
捨てている外部協力による経済的な街  
づくりだけでは、この街で暮す人にと



つては困る事なのである。街づくりは一人一人の思いが浄化された所に根ざしてほしいと思うのである。その建設に携さわる人間は、街づくりのビジョンを持ち、人間の動きに敏感に反応出来、それを基にして直接街づくりを考え、行うことが出来る者でなければいけない。この立場からの発言は、多くの市民にとって重要なものである。

学生時代に鍛えた刃は、十年もすると錆ついてくるし、ある時は周りの流れに同調をもしなければならぬ。しかし基本は、堅持していつの日かよい街になるべく努力したいと思う。私はこの小さな雪国の街で、歯の抜けたようにはなっているが、古い町家はどうやって残っていくべきかを、これらの街角や、建物はどういうあり方がよいかを、私の周りの人々と話しあい、よい意味で拘わり続けて住みよい街にして行きたいと思う。

一年半ごと位に広島を訪ずれるが、

段々と街は大きくなり、住環境が隅々に押し込められていっているような感じがする。その中で、五三会の人達がどのように御活躍され、広島がどのように住みよい街になって行くかを、片田舎より見守りたいと思う。

### 建設業界を離れて

(四十五年卒)

松村 政高

現在建築学科を専攻しているがまったく異った職種についている同窓生もたくさんいると思いますし、又、大なり小なり一度や二度は転職をした人達も多いのではないかと思います。

私くしもその一人のうちです。私事ですが、在学中は卒業したならば、いっばしの設計家になろうと夢見ていました。その為には設計事務所へ就職して勉強し様と思つて居ましたところ、あ

る人が今からの設計家は建物の意匠もさる事ながら建築物の中で生きている設備を考える時代が来ると云われたるによって設備を勉強しようと思ひ卒業と同時に設備会社へ就職しました。在学中設備の講義をあまり受けてない私にとってそれは大変な事でした。すべてからの勉強でした。しかしそういう期間も束の間でした。二人歩き出来る様になると、現場に追われだしました。会社と云う所はやり方じだいですが、

勉強もさせてくれますが、それよりもまず会社が成立つて行く為には利益を上げねばなりません。どの世界においても金銭がつきものですが、現場の利益から給料や経費を取らねばならない仕事は、一般のサラリーマンに比べて私がおもうのですが、身に迫る思いがないでもありませんでした。その様な事なのでいつしか、勉強どころか利益が何パーセント出た、赤字にはならないだろうかとか、その様な考えが先攻し毎日過ぎてゆきました。おかげで、クレームを起せばマイナス(赤字)になるの

で技術面ではかなり勉強したつもりです。一応一人前に物言はしやべれる様になったと思っています。しかしこの業界にいやげがさし心機一転建築には関系のない商売の喫茶店を始めました。昔から一度はやってみたかった商売でした。と云うのは会社に居た頃、よく喫茶店へ行きました。きれいな仕事で大変楽しそうでした。よく思ったものです。「今の仕事にくらべると、楽だろうな」と、しかし現実はいきびしいものでした。側で見るほどいいものではありません。労働時間は長いし、お客には気を使うし、ただ自営と云う面では気楽ではありません。店に来るお客さんも昔の友人や、建築関係の人が多いのでつい話しはその方向へ行ってしまう。人に云わせれば何故この様な商売をするのか？もったいないではないかと云われます。その様な時自分自身何か間違った方向へ入ったかなと不安になる事もありました。喫茶店をやっているも凶面、見積等の相談を受けることも

よく有り、建築業界がいやで別の商売をしたはずがやはり手が切れませんでした。結局現在は元の鞘にもどり、建築&設備コンサルタントと云う名前前で仕事をしております。もちろん喫茶店の方もやって居ります。長々とくだらない事を書きましたが昔からよく云われる言葉の様に隣の花は美しく見ると云う事です。現在会社勤めをされている同窓生のみなさんも、何か他にいい仕事はないかと考えていない人はまずおられないでしょう。現状で満足されておられる人は少数の人達だと思います。しかし人生、遊んで暮らせる人は別として、人間働かねばなりません。その方法として、自営かサラリーマンかしが有りません。同じサラリーマンであるなら、どこへ行っても大小の差は有りますが同じだと思いません。どうせ同じなら最初に入社した所で幸抱した方が良い様に思われます。特に入社一年目、三年目の人達考えて下さい。もし私でよければ、相談に乗

せてもらいます。気軽に連絡下さい。

広島市祇園町長束中通り一八八の一

建築&設備コンサルタント

TEL ○八二一三八一二五四

広島市祇園町南下安(下祇園バス停)

喫茶 みゆき

TEL ○八二八七四一三四八



## 結婚のすすめ

広島市役所

山本 富雄

昨年五月に結婚して、まだわずか九ヶ月余りしかならない、実のところ、ずいぶんと年月が過ぎ去ったような気がする。

私にとって、結婚の最大のメリットは何といっても食生活の改善であろう。

一人で食事する、日に三度の外食の何と味気ないことか。私の結婚は、むしろそれに耐えかねてのもだった。自分が一休何が食べたいのかさっぱり解からないのだ。特に夕食時分がとても憂うつになるのだ。そんな調子だから食欲など湧こうはずがない。よく夕食を抜かして寝たものだった。飢えないために食事、それはまさに義務的な何ものでもなかった。それがどんなに惨めたらしいものであったか……。

しかし今は違う。物価高に迫り立てられた慎まじやかな食卓ではあるが、こうしていつも美人の女房と食事がで

きるのだ。私の結婚はまさに食べるむ

なしさからの逃避であった。食生活の

安定こそがすべての生活の機動力の根

源なることを身を持って知ったのだ。

その答を導き出すのに私の払った代

償はあまりにも大きかった。なんて言

うと女房に怒られるかな。

六畳二間の木賃アパートから今日も

女房の歌声が聞こえる。



# 第5回五三会コンペ入選表発表

第5回五三会コンペは課題「広島工業大学学生寮」のもとに行なわれ、昭和54年10月19日をもって締切らせていただきました。応募作品数は8点であり全て在学生の作品でした。今回は第5回目のコンペであり、特に現在計画研究所・藤本昌也先生に審査員をお願い致しました。先生には多忙の中、2日間にわたり審査をしていただき、厳正な審査の結果次記の通り入選案・佳作案が決定しました。

表彰式は11月3日大学祭に於いて行なわれ、全作品も展示発表しました。ひきつづき学生・卒業生の座談会も行なわれコンペのあり方・今後の五三会コンペへの希望・就職の件等熱のこもった意見がかわされました。

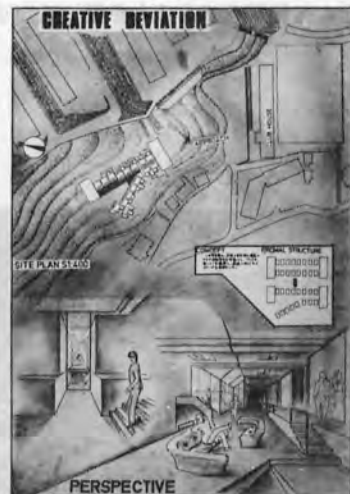
今後も皆様の御意見をお聞かせいただきより充実したコンペにしたいと考えております。

次回は卒業生にも頑張っていたいただき多数の参加を期待致します。

五三会コンペ実行委員会

## 入選作品

代表者 谷重 義行



大学、その現状は単に知識の伝達のとどまっているにすぎない。その大学という場に私は、学生と学生との出会い、学生と教授との出会い、学生と住民との出会い……という中から生まれる自由と創造の場として、つまり可能態として開かれて在るべき大学の姿を提案したい。この主旨によって学生寮は出会いの場を中心に個と全体のダイナミックな関係が、その建築に内包されなければならないと考える。

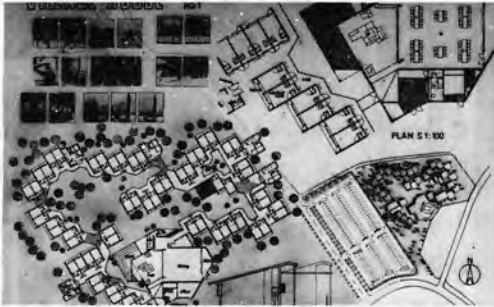
このダイナミックな関係を建築的に具現するならば、個々人の安寧の場としての内部空間である自己完結的個室のユニットと、外に向かって広がり流れ出る半外部化された中央ホールとに現わされるだろう。またこの関係を人的レベルでとらえるならば、すでに社会化された1人の大人として認められた学生が、一つの寮としての組織の中で匿名化し埋没することなく、又、反対に全体とは完全に切り離された個体としてあるのではなく、可能な限り、個と全体がバランスよく保たれ、有機的関係を作ることが可能ではなからうか。

谷重 義行



## 佳作

代表者 垣谷 光慶



数年前まで、学生の文化は学生寮にあると言われていました。それぞれの寮は、伝統によって培われた個々の顔を持ち秩序を築いていました。

しかし、最近では学生の個人化が進み、学生寮においても先輩から受け継がれた伝統がすたれ、食・眠のための空間になりつつあります。

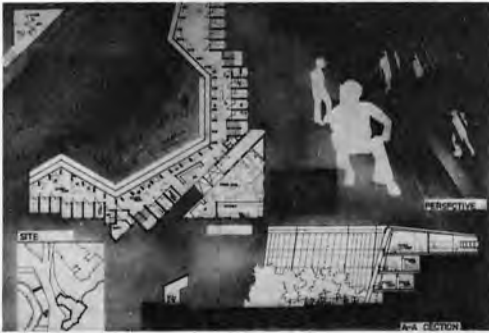
そこで、学生寮に自立した村としての機能を与え、寮としての新たな個性を生むためにこの計画を行いました。12人で1つの群を作り5個の群で村を形成しています。それぞれの群によって囲まれた共有空間では、スポーツ・談話・集会・寮祭など寮としての自治活動が行われ、一つの文化が築き上げられて行きます。

時間の関係上、細部まで行届かなかった面非常に残念ですが、来年度の五三会コンペにおいて、数多くの後輩たちが新たな挑戦をすることを願っています。

垣谷 光慶

## 佳作

代表者 久保 恭一



現在の大学においては、地域住民とのコミュニケーションは少なく、地域に対する大学の文化的、社会的な役割は非常にとぼしくなっている。そのような状況の中にあって、私はこの広島工業大学と周辺の地域住民との接点に、出会いの場としての卒業研究生のための学生寮を計画するものである。そして、この場所性において大学と地域を結ぶ門としての役割を、この建物に与えたい。そして、大学がデットスペースとなる夜を、地域住民とのコミュニケーションを復活させるための生きられた場として、地域社会に開放されるのである。

久保 恭一

## コメント

### 審査委員 藤本昌也

日頃、設計活動をしている私にとって他人の作品を評価し、しかも、それに順列をつけるなどということは、予想していたこととはいえ、やはり大変やっかいなことでした。自分ならどうするか、どんな点にこだわって設計するだろうか、ついつい自分のイメージが先行して、応募案を客観的に見れなくなってしまうわけです。しかし、やはり私自身のこだわりの点からしか見れないわけで。独断と偏見を恐れず裁断を下した結果こういう作品が選ばれた訳です。私自身がこだわった点を多少整理をすると2つの視点に要約できます。ひとつは、空間のコンセプトが作者に明確に意識され、意図的かつ、それが納得いくものであるか、という視点です。もうひとつの視点は生活者からみて本当のところ快適で使い易い建築か、そういうことにきめ細い配慮、心使いがなされているかという点です。学生寮の空間コンセプトにとって先ず大事なことは個と集団の関係をどう空間化したかという点であり、次にそうした建築的条件と敷地の持つ条件、殊に、自然環境の条件

をいかにうまく結びつけ、内、外部空間のコンセプトをつくりあげたかということになりましょう。以上のような視点から入選案をみると作品に力強さが不足し、パンチがないのが気になりますが、2つの視点にバランスよく気を配り無難にまとめている作品ということで好感がもてます。ひとつのことだけにこだわって、それを個性的だと感違いしている建築作品が数多くつくられている昨今の状況に流されず、複眼的な視点で建築をつくる地道な努力を重ねていけば、よりパンチのきいたデザインができるようになるはずですし、そのように期待したいと思います。

佳作2点は、そういう意味でコンセプト先行型で生活者の立場からすると問題があり、コンセプトそのものが描象的、観念的だったように思われます。斜面にはりついた案は空間コンセプトとして大変魅力的で興味を惹かれましたが、個室の扱いがなんともしやり切れません。共同空間の演出に力を入れすぎたコンセプトで、もうひとひねりした空間コンセプトに仕立て上げる必要があったように思われ、惜しまれる作品でした。

## 第6回五三会コンペ作品募集

課題 「町の魅力・五日市」

80年代は提言の時代といわれている。また、文化の時代、地方の時代ともいわれている。それぞれの地方、町が特徴をもって、そこにしかない町の魅力を持つ必要がある。

今回は、工大が位置する五日市町のまちの中心またはシンボリックな場所の景観、その他身近な街角の風景に着目して、それを整備した提案を募集する。

たとえば、五日市役場周辺、産業道路の商店街、三筋川河川などである。

ユニークなアイデアを期待している。

所要図面 A,1枚に位置図、平面図、立面図、断面図、模型、パース、スケッチ等設計意図を説明するために必要な図面を各自選択して描くこと。

表 現 自由とする。

応募記載事項 作品の裏面に応募者の住所、氏名、電話番号を記入すること。

応募締切 昭和55年9月1日(月) 正午(郵送の場合は9月1日の消印を有効とする。)

提出先 738 広島県佐伯郡五日市町三宅 広島工業大学建築学科事務室

応募資格 広島工業大学建築学科学生、卒業生、教職員

入選発表 大学際にて発表、展示。

入選賞金 入選点数および賞金(総額20万円)は審査員の決定により配布する。

審査員 3月末日ポスターにて発表予定

広島市の都市美に関する論文・デザイン募集で入選者を出した

### （株）LAT環境設計事務所

（四十九年卒）  
上之 博文

ここでは弊LAT環境設計事務所の紹介と広島市の都市美に関する論文・デザインの内容を述べようと思う。LAT（ラット）は、昭和四十八年七月二十三日、山本靖雄氏（代表取締役社長・広島工業大学講師）によって設立され、現在総勢十五名の事務所である。

LATという意味は、Landacape  
＝造園、Architecture＝建築、  
Town－design＝町づくり、そしてLATitude＝自由ということである。

これは、今まで造園設計事務所、建築設計事務所、都市計画事務所等が、それぞれの分野で計画、設計を進めてきたが、現在では、各分野が複雑多岐に渡っており、各専門分野を越えた総合的に計画・設計が出来る事務所が必要であり、これを目指しているということである。LATには、造園学出身

者建築学出身者及び土木学出身者で構成され、個人個人が専門分野を持つと同時に総合的な考え方が出来るように努力している。

業務内容は、自然環境、都市環境の調査研究、観光診断と開発、自然公園都市公園の計画、実施設計、農村の開発及び保全ダム・河川・港湾・道路等環境整備、事務所・医院・商店等建築設計他である。現在まで多くの調査、計画、設計があるが主な実績をあげると、宮島町包ヶ浦集団施設地区整備計画設計、広島県緑化センター広島県緑化公園基本計画、三次風土記の丘実施設計、広島市少年自然の家修景工事設計、広島大学西条新キャンパス緑化基本計画設計、東広島市緑のマスタープラン等がある。

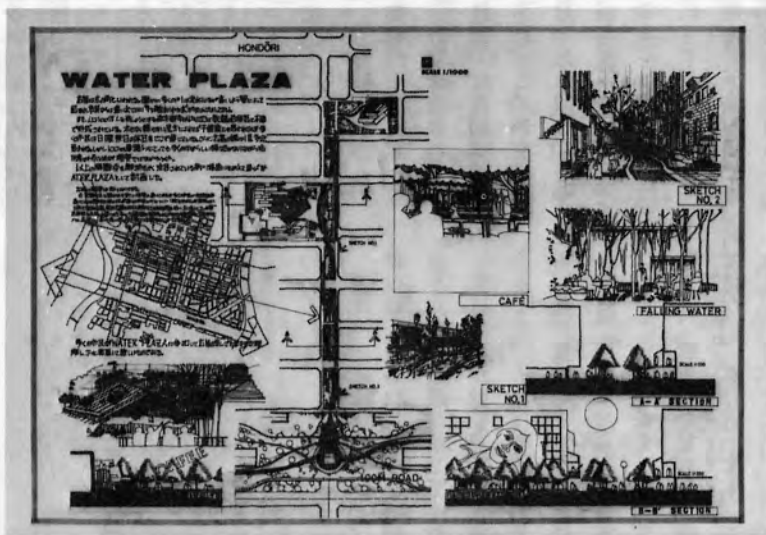
さて、事務所内では様々な提案、計画が行なわれて実行に移されている。昭和五十三年六月には、八丁堀のギャラリーを借りてLAT五周年記念作品展を開き、多くの見学者があり好評を得た。また、年一度の社内旅行は、有効に利用しようということで、研修旅行と称して、多くの公園、観光施設建築等を見学して明日の計画、設計に生

かしている。また、毎月一回土曜日の午後には、ミーティングをしている。これは、所員が順番に受けもち勉強・研究したことの発表、問題点の討議等を図面、スライド映写を用いて行っており、充実した時間となっている。

広島市の募集した都市美に関する論文・デザインもそのミーティングのテーマとして登場した。ここでは、LATは広島市にあること、LATは、環境を大きな設計目標にしていること等から入選するしないは別にして応募する義務があるのではないかという提案が出た。それではということで締切を一週間前にひかえ熱烈的な議論が行なわれ様々なアイデアが飛び出した。

その後、二ヶ月して広島市の発表した入選者を見ると、LATから論文の部が一等、デザインの部が一等・二等佳作と入選するという好成績となり所員一同喜びあった。

一等論文は、「緑の山・青い空・澄んだ川そして太陽の輝く町広島」というテーマで、①都市美のイメージ、②広島島のイメージ、③都市づくりのための二、三の提案、④個々の地区に於けるいくつかの提案の四章で構成し、都



広島市応募図面（デザイン部門一等）

市美の要件に「水景観」・「夜景」の美しさ「緑」の豊かさ、整然とした街並み、など六つを挙げ、「水と緑の都」をテーマとした都市美づくりを提言している。

また一等デザインでは、「Water Plaza」というテーマとし、三川町の新川場通りを中心に新天地西公園と袋町公園を加え、本通りから平和大通りまでの間を中央に小川の流れる緑の小道にする提案をした。

以上のような、貴重な経験をしたLATはますますチームワークを持った総合力を大切にし、将来にむけて幅広い前進をしようとしている。

LAT環境設計事務所勤務



天満ゼミ紹介

「エーツ、シエメントと骨材の調査は三対七でジェンタインに占める空気量は約一パーセント前後です。そして……」

このユーモラスな口調で講義をなさる先生といえば建築の学生なら誰でも知っているあの天満先生です。広大を卒業後、荒木組、県庁を経て四十二年に広工大に迎えられ、現在に至っておられます。天満先生は御専門の材料学と設備関係の分野で活躍されておられ、特に最近では夏期休暇制より進められ、この冬完成のはこびとなった本学内の暖房設備工事にも着手され毎日、お忙しい日々をお過ごしになっておられます。

この様な由で天満ゼミでは、防災設備、空調設備関係を中心に、実務的、実地的な研究をしています。先生が御多忙の身なので毎日とはゆかず週一度行っています。もっと詳しく

く研究したい学生は、卒研テーマとして設備を取り上げ、またそれを踏まえた上で、一般設計に取り組んでいる学生もおります。

ATEPER MPZUTA

壁が……：

壁がある、と書きかけて、私は息をつめる。

私は金縛りにかかったかのように、動けなくなつた。そこに壁がある。と言うことを、誰が信じてくれようか。

私は、私が壁を見た、と言いかえようとした。これは事実である、少くとも、私が見た、と言うことは、私にとつては、疑うべからざる事実である。

しかしこう言ってもやはり、他人には疑えば、疑えるのである。他人ばかりではない。私にとつても、これは自信のある言明ではない。私が見た、と言うことが、たとえ、確かであろうとも、それが果して壁であろうか、壁とは何であるか、と聞きかえされると、いまの私には、すぐには答えられない。私

は、答に行きつまるのである。

(「壁と私と空間と」より)  
生きられた時間の中で、現前化している、確かな、物と私との「出会い」へのまなざし。

私たちは、今、この事実の中で、壁や、空間や、建築が何であるか、を問うよりも、これらのものが、どのように現象するか、どのような機能をもつか、を問う方が、はるかに時機にかなうように、想えているのです。



## 橘ゼミナール

橘ゼミナールにおいては、建築全般における分野を幅広く取り扱っていますが、特に力を注いでいるのはアイデア（詳細）です。

最近の傾向としては、詳細を軽視しがちですが、設計製図の段階においては、平面図、断面図という順でやってゆくと、詳細図において、おさまらないという事がよくあり、設計製図においては、まず詳細図から書いた方がよいと橘先生からいわれています。実際製図の時によく経験することだと思えます。

設計の提出作品、大学祭の作品などにおいては、まだまだ橘ゼミの特長を出すまでの完成度までゆかず、ここ数年はゼミの勢いも、多少低落きみにはなっていますが、これは上級学年の責任とともに、ゼミ員の意識の甘さによるものだと思います。ゼミに入った者は、先生を中心に、一致団結しゼミを盛り立て、そして、建築学科を盛り立てていきたいと思います。

## 佐藤洋ゼミナール紹介

従来の設計は、感性的なレヴェルと、科学的レヴェルの格差が大きく、そのプロセスを明らかにすることがないため、感性的、感性的に捕えられがちである。そして、その方法論に甘んじているように思われる。

この方法論において、現状を打破することはできず、「全国総合開発計画」において見られるように、それは、現状悪化の方向に向うばかりで、あまりに無味乾燥な計画になりがちである。

今日、高度経済成長時代も過ぎ去り混迷の時代において、計画論も、感性にたよったものや、その背景・状況を無視したものではなく、より明確な足がかりが必要であると思われる。

我々のゼミナールでは、その設計討論を討義し、それに伴う表現を開発してゆくものである。

## (都市計画&地域整備計画)

### 菅原ゼミ紹介

我が研究室は、現在の複雑化する都市、および、地域社会において解決すべき諸問題の調査、分析活動、研究活動に日夜、励んでおります。

また一方、ゼミ活動として広く建築を学ぶ為に、建築計画すなわち、設計活動におきまして、各種コンペに出品しています。(今回の五三会コンペにおいて、我がゼミは佳作に入りました。)

ゼミ員は一人一人が、個性に富んでいて、研究室内は笑いのたえないなごやかな雰囲気があります。また、ゼミ員相互の援助や協力には、目を見張るものがあります。

菅原ゼミは永遠に不滅です。

菅原ゼミに山本君有りノ

パンザイ

## 佐藤立美研究室紹介

初雪の便りが、各地から聞え、もう冬將軍が、すぐそこまでやって来ました。そんな中で、我が研究室は、今や、研究室の行事となった、「三宅駅伝大会」への参加のために、ゼミ一体となって練習しています。その他にも、も、春秋のソフトボール大会への参加など、特に、体育会の行事には、積極的に参加して学生生活に、良き思い出をたくさん残そうと皆んで協力し、努力しています。以上のようにして造られた団結は、大きな力となって、勉強にも注ぎ込まれます。

我が研究室は、建築の中では、構造系に属します。特に、佐藤先生が、研究されている鉄筋コンクリート部門は、誰もが知り得る、知識だけで無く、建築のありかたや、そこに広がる「建築の無限にして広大な情景などを、先生と机を一つにして語り合います。その他にも、光弾性実験という、光を使って、応力の状態を知る解析なども、他

の研究室では見られないものです。それに、今年からは、地震に対する研究も、数人の人達により手がけられています。

最近では、学校という存在が、学生の中から消え去ろうとしています。私達の研究室では、その学校という存在を少しでも、自分の中で生かし、そして、有意義な場とするため、研究室独自の、ユニークな行事計画も、一年を通じて数多く設けられています。そして、先生と共に、建築だけにかかわらず数多くの分野について語る、ミーティングなども、楽しいそして、自らを成長させる大きな原動力になります。

## 高松ゼミ

現在の建築学科は、構造系・計画系・設備系の三系に分類することができる。高松ゼミは、構造系に属するゼミである。ゼミの講義は、大学のカリキュラムの中で、三年の後期からゼミナールとして開講されているが、高松ゼミでは、前期から（四月から）すでに初められている。前期では、英語による専門書・構造力学Ⅰ・Ⅱの復習を行なう。後期では、カリキュラムの講義として、「座屈」の講義を行なっている。

高松ゼミは、毎日勉強ばかりに勤むのではなく体を鍛え、人格を高め、そして他のゼミとの交流を高める目的で、高松ゼミ主催のゼミ対抗テニス大会を行なっている。そのため高松ゼミでは、硬式テニスが必修（？）となっている。



〃退職に当って 五三会の  
皆様へ〃

橘 節司

私は、本年三月末をもって、広工大建築学科を退職することに致しましたので、五三会の皆様に一言ごあいさつを申し上げます。

満十二年間在職したことになります。が、何んと云っても創波期である一期生から四期生位迄の諸君との想い出が最も強く残っています。

退職することの原因の一として、学生氣質の変化が上げられます。私がよく話したり、書いたりすることですが、初期の学生と昭和五十年台に入ってから、の学生は、全く質の違うもので、教師としての対応に戸惑っています。

教師と学生とは、相互関係によって成立するものであり、学生の反応があればあるだけ教師も張り切るものだと思います。

初期を知らなければそれで済んだのでしょうか、勉強もしたが大いに遊び

もした初期の諸君とのことがあるため、

現在の学生の四無主義（昔は三無主義

でしたが、今はそれに 何んにもしな

い の一無が加わり四無）にはほとほ

と寒心します。心が冷えてしまうから

寒心と云いますが、張り合いがありま

せん。昔はこうではなかった。の意識

があり過ぎるのは、学生にとっても決

してよくないことだ。思い、もっと違

った教育を目指して、今度退職を決意

したわけです。

原因は他にもありますが、云えばグ

チに聞えるだけでしょうから、それは

止めておきましょう。

四月からは、新しく建築系の各種

学校である「建修技術学校」を設立し、

教育上の責任者としての仕事を始めま

す。

大学とは違った形での、きびしい建

築教育を行ない、初・中級技術者の養

成に当たります。

ある意味では、私に最も適した仕事

であると思うし、又、私でなければ

きない仕事であると信じています。

中年になってからの職業転換には、

さすがにある勇気が居りましたが、多

くの参同者を得て、大体のことは順調

に進んでいます。

はっきりとした将来の見通しがつい

ている訳ではないけれど、一生懸命に

とり組めば、道も開けて来ると思いま

す。

建築士の受験のための講習会は、こ

れからも続けて行きます。利用して下

さい。

一応身分としての肩書きは校長とな

りますが、何も急に中身が変わるわけ

ではないので、どうぞこれからも今迄

通りのつき合いをして下さい。私自身

が変わってしまったのでは、私でなくな

るし、持ち味がなくなってしまうす

ので、今迄通りの私で居るつもりです。

どうぞ五三会の皆様、これからもよ

ろしくお願い致します。

皆様の御健康と御活躍を、心から祈

っています。

以上







第31回県美展日本画大賞「民家」 加藤 早苗



設計と絵画

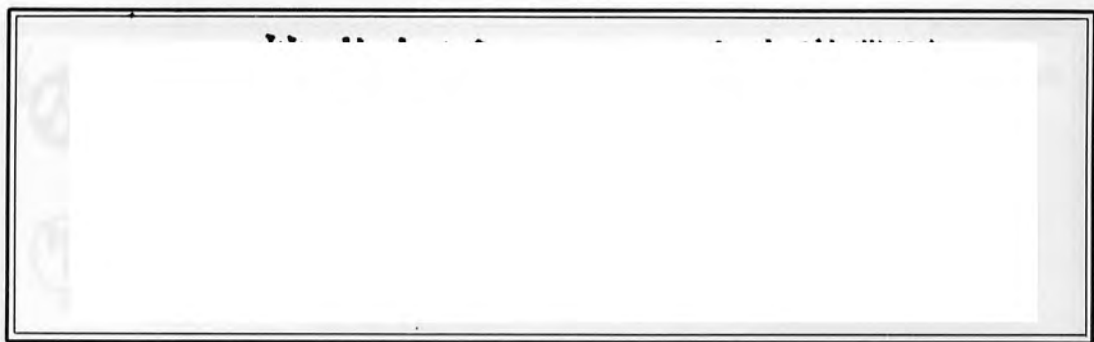
(四十五年卒)

加藤 早苗

私の設計と絵画についての感想を求められ、私は今日までこうして勉強して来たとか、またこれからどういふふうを考えるとか、美しい文字や新しい言葉を並べてみたところで、私のいいようなことは、人がよく知っている。

私の言葉というものは、作品である。口で上手にいうことは出来ても作品ではそう上手にはいえない。

ツカミどころのない両者に何か通じるものがある様な気がしてならない。いつしか両者の接点を見つけることが出来ることを信じて作品を作りつづけていたいと思う。



## 全米住宅ショー見聞記

(四十五年卒)

金堀 一郎

“うさぎ小屋”に端を発し、住宅の規模と質の問題に官民をあげて高い関心が寄せられている。昨今去る一月十八日～二十一日間、住宅建築ショーがラスベガスで開催された。

全米住宅建築協会 (NAHB) が主催するもので、住宅建築業界最大の催で三十六回にあたる。

出展は六〇〇社に及び展示品目は、住宅建築に関するあらゆる建築材料から新進の木材加工機械、住宅機器、設備などが一堂に発表される。さらにコンベンションホール外では、モデル団地の建築現場やソーラーハウスの実験住宅などが大スケールで実物展示されている。広く世界各国から建築関係者延べ五万人が集う、この住宅建築ショーの見聞機会を得て、以下見聞記です。

### ● 砂漠の中の別天地 (ラスベガス)

砂漠の真只中ギャンブルの都は冬だといふのに空は抜けるように青く日本の五月頃のように暖かく若き女性達は半袖姿で初夏のファッションを楽しんでいた。ホテルに着きエントランスホールに入ると広いロビーは異様な雰囲気薄暗く点在するスポットライトは冬の星空を思わせるようであった。何歩か歩んでそこがあの噂に高いギャンブル園であることに気付いた。気を取り戻し手荷物をルームに納め、身仕たくを整え待望のコンベンションホールへと急ぐ、コンベンションホールはまた別天地であった。



砂漠の町ラスベガス効外

### ● 高い入場料しかし価値ある催

コンベンション入場の際にNAHB非会員の場合は登録料として一人二〇〇ドル(約五万円)支払うと氏名、国籍をタイプした登録カードが与えられる。

このカードを胸に付けておけば会期中何回でも自由に見聞でき諸外国語さえ話せれば世界各国の住宅に携わっている人々と自由に情報を交換できるシステムだ。またここで省エネルギー・不動産金融・商品開発・土地利用開発・コンドミニアム(分譲マンション)開発などの会議がショーと平行して開かれている。

コンベンションホール内には屋根・床・壁・天井材から家具ユニット・住宅機器・住宅設備機器・電動工具・木材加工機械・太陽電池・鉄、木併用住宅サウナバスから各種健康機器に至るまで全米の住宅関連メーカーが最新商品やシステムを一堂に公開展示しており、

まさに全米の住宅関連業界の縮図という観がする。

ここでは、展示にとどまらず、メーカーとホームビルダー(住宅供給会社)間で技術、システム導入や商品売買の商談もすめられているようだ。



コンベンションホール内部

### ● 先取性アイデアに富んだ発表が数々

質と量そしてめずらしさにおいて、限らない展示を時間の経過さえ忘れ、次々に見学しながら住宅産業のスケールの大きさ中の広さ関連産業への波及効果の大きさを改めて知らされた。また、木材のチップ(木材を粉碎したものを)を高圧圧縮で固めたものを構造耐



鉄と木を合理的に使った小屋組

力壁として造り上げた住宅や、ライトゲージ（薄い鉄板）と木材を組合せライトゲージをテンション材に、木材をコンプレッション材として梁や小屋材に使った住宅、太陽電池で日射の量に応じた（対応して）小屋等の換気量を調整するシステム等、その合理性と斬新性には強い興味と感動を覚えたもの。これらは我国の住宅産業に課せられた、省資源、省エネルギー住宅開発への方向性とヒントを与えるものと思う。



トラクターハウスモデル団地現場

それぞれ単独の組織化しかなされておらず、全米住宅建築協会のような総合的情報交換の場がないのは残念だ。

●太陽エネルギーをコントロールするソーラーハウス

コンベンションホールの近くから、ソーラーハウス実験住宅や、トラクターハウスのモデル団地回覧バスが用意され効外にセットされた展示現場へと案内される。

ソーラーハウス実験住宅は、太陽エネルギーを可能な限り採り、かつ採ったエネルギーは戸外に漏らさない。こ



ソーラハウス実験住宅

とを忠実に実行し造られた住宅と云った感じで屋根や外壁・窓などは従来の住宅の概念では理解できないものであった。エネルギー問題が深刻化の一途をたどる昨今、石油エネルギーを前提とした家づくりから、無限のエネルギーである太陽を基本とした家づくりへと、家づくりの基本概念の方向転換をする時期にさしかかっていることを示唆しているように思えた。

短い期間であったが、数多くの情報と貴重なヒントを土産にラスベガスを飛び立つ頃、私の脳裡にギャンブル都市ラスベガスは情報中枢の未来都市の

イメージに塗り替えられていた。  
昭和五十四年二月八日記

## 五三会活動報告

県庁宮繕課勤務  
幹事長 下 健蔵

会員はずでに一昨年二千名を越え、広島地区では、今や建築業界のあらゆる分野にゆきわたり、それぞれの分野で数の上では相当の割合を占めるようになりました。それにつれ業界での地位も向上しつつあります。

数の上だけではなく、社会的に重要なポストにつく人もあり、又技術面での実力が社会的に認められた人もはじめ、質的にも、業界での評価は高まりはじめました。これを基盤に今後も尚一層活躍したいものです。

「五三会」を通じ、同窓生の親睦、情報交換に活用して下さい。それと共に、「五三会」に対する御理解、御協力をお願い致します。

さて、今年度の活動内容は次のとおりです。

- 一 大学祭の参加OB展
  - 二 設計コンペ
  - 三 会報発行
  - 四 総会
  - 五 名簿発行の準備
- これらの活動をするために、幹事会を、

- 一 書記局
- 役割 幹事会の書記事務

五三会役員名簿の整理  
総会の企画実施

### 二 情報分科会

役割 各種情報の収集及び整理

会員の勤務先、住所録の整理及び発行

### 三 設計コンペ分科会

役割 設計コンペの企画・実施

役割 五三会会報の編集発行

役割 对在学生分科会  
業を行なう

の五つの分科会に分け、それぞれの部会で企画し、幹事会の承認を得て実施しました。

特に今年度は、曾根田教授の退職に伴い、従来五月に総会をし、そのあと行なっていた懇親会をとりやめて、三月二十九日に記念講演及びパーティを行なうことになりました。会報も曾根田教授の記事を特集し、案内の意味も兼ね、従来三月末の発行を三月始めにし、三月中頃に会員の皆様の手元にゆきわたるようにしました。

名簿発行については、総会の活動方針で述べました通り、今年度は、来年度発行の準備段階で、情報分科会において情報収集を行ない、名簿整理が着々と行なわれています。来年度には皆

様にお届けできることと思います。

### ○幹事会

○五十四年七月二十四日 於労働  
会館 午後六時～九時

出席者 十九名  
内容 五十四年度の事業の  
推進について

その他

○五十四年度十一月十三日 於労働  
会館 午後六時～九時

出席者 十九名  
内容 大学祭OB展、設計  
コンペの報告

その他

○五十四年十一月十三日 於労働  
会館 午後六時～九時

出席者 七名  
内容 会報発行について

その他

○五十五年一月三十一日 於労働  
会館 午後六時～九時

出席者 十五名  
内容 曾根田教授の退職記  
念講演及び総会につ

いて

その他

総会及び曾根田教授の退職記念講演の打ち合わせのため、三月二日、三日幹事会を開く予定。

この他に、幹事会の開かれる前に、それぞれの分科会で企画実施のための会合が開かれました。



1 幹 事 会務を処する

1 評 議 会 会務を評議する

第 10 条 役員は任期は一カ年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充しこれによって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

#### 第 四 章 顧 問

第 10 条 この会に顧問若干名をおく。

1 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する

1 顧問は会の諮問に応じる。

#### 第 五 章 会 議

第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会及び役員会とする。

第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年5月に開く。臨時総会は役員会が必要と認められた時会長が招集する。

第 13 条 総会は次のことを決める。

1 会則の変更と改正

1 決算及び予算

1 役員の変更

1 その他重要な事

第 14 条 役員会は会長が必要と認められた時招集し、次のことを決める。

1 総会に附議する原案

1 この会の運営に関する諸事項

1 その他緊急事項の協議

第 15 条 会の議決は会員の参加者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

#### 第 六 章 会 計

第 16 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。

1 会員は入会金として、入会時に1,500円を納入しなければならない。

1 会員は年會費として1,500円を納入する。

第 17 条 この会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31に終る。

#### 付 則

この会則は昭和48年7月1日から施行する。

“ 54年5月19日 ”

# 広島工業大学建築学科同窓会 「五三会」会則

## 第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学建築学科同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は本部を広島工業大学建築学科内に置く。総会で必要と認めた場合は支部を置く事ができる。
- 第 3 条 本会は会員相互の親睦と母校建築学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に次の事業を行なう。
- 1 集 会
  - 1 会員相互並びに共助に関する事
  - 1 会誌及び会員名簿
  - 1 母校建築学科に対する援助
  - 1 その他本会の目的達成に必要な事

## 第二章 会 員

- 第 5 条 本会は次の者を似って組織する。
- 1 会 員 広島工業大学建築学科卒業生
  - 1 客 員 母校職員及び旧職員
  - 1 賛助会員 本会の目的に賛同する個人又は団体
  - 1 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められた者

## 第三章 役 員

- 第 6 条 本会は次の役員を置く。
- |         |           |           |     |
|---------|-----------|-----------|-----|
| 1 名誉会長  | 置くことができる。 | 1 評 議 員   | 若干名 |
| 1 会 長   | 1 名       | 1 副 会 長   | 2 名 |
| 1 会 計   | 2 名       | 1 会 計 監 査 | 2 名 |
| 1 書 記   | 2 名       | 1 幹 事     | 若干名 |
| 1 幹 事 長 | 1 名       |           |     |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- 1 名誉会長は総会をもって推す。
  - 1 会長・副会長・書記・会計・会計監査・評議員は総会で正会員の中から選ぶ。
  - 1 幹事は総会の議決により正会員の中から委嘱する。
  - 1 幹事長は幹事の中から互選する。
- 第 8 条 各役員はそれぞれ次の任務をもつ。
- 1 会 長 本会を代表し会務を司どる。
  - 1 副 会 長 会長を助け会長に支障がある時は代理する。
  - 1 書 記 会議などの記録に当る。
  - 1 会 計 会計事務に当る。
  - 1 会計監査 会計を監査する。
  - 1 幹 事 長 幹事を代表し会務を処する。

## 会員へのお知らせ

### ◎ 会費納入のおねがい

五三会は建築学科卒業生全ての会でありますので、会費を納入されていない方は、1日も早く送金下さるようお願いします。なお、五三会で用意しました振替用紙を使用していただきますと、手数料がかりませんので五三会の振替用紙をご利用下さい。

なお、入会金は1,500円、年間会費は1,500円です。

郵便局の口座番号は、広島28276

### 編集後記

委員を分担して、いろいろ夢を描いて、進んで来たが、時間切れという結果に終わってしまった。残念な気持ちであるが、今なお夢は捨て切れずにいる。やはり、この会誌は、いろいろな人達に、いろんな場所での、語らいの中に入り込み、親しみを抱いてもらえるような誌面にしたいものと願う。建築という分野のアカデミックな要素は、もちろんの事、それにプラスして、浪漫的要素をもっと織り込んで、皆さんの手元に、末永くファイルしてもらえるものになってくれれば素晴らしい事ではないかと願いつつ筆を置く事にします。

#### 「五三会」第7号編集委員

- |       |       |
|-------|-------|
| ・中塚晴夫 | ・夜笠准一 |
| ・金堀一郎 | ・山下高美 |
| ・安松康利 | ・谷口哲章 |
| ・保井英三 | ・木村仁美 |

Daigaku Letterpress Co., Ltd.

Journal Report (Japanese European Languages)

3-23, NICHOME, TOKAICHI, NAKAKU, HIROSHIMA  
TEL: HIROSHIMA (0822) 31-4231~4, 32-6057

大学印刷株式会社 〒733 広島市中区十日市町2-1-15





『いづみ会』 広島工業大学建築学科同窓会